

第3章 訪日外国人観光客の来訪実態

3.1. 訪日外国人観光入込客数

携帯電話の基地局データによると、葛飾区を訪れた訪日外国人観光入込客数は令和6年4月におよそ12,600人回、10月におよそ14,100人回であった。このうち、宿泊客数は令和6年4月におよそ7,600人回、10月におよそ8,200人回である。

表3-1 葛飾区の訪日外国人観光入込客数（基地局データ）

（単位：千人回）

		訪日外国人観光入込客数		
			宿泊客数	日帰り客数
令和6年度(2020年度)	4月	12.6	7.6	5.0
	10月	14.1	8.2	5.9

一方、スマートフォン等のGPSデータによると、葛飾区を訪れた訪日外国人観光入込客数は令和6年度で年間およそ59万人と推計される。訪日外国人の国籍・地域別にみると、「台湾」が最も多くおよそ12万6千人であり、全体の2割強を占める。次いで「韓国」（およそ10万6千人）、「中国」（およそ10万5千人）、「香港」（およそ4万1千人）、「フィリピン」（およそ3万人）、「米国」（およそ2万7千人）、「ヨーロッパ」（およそ2万5千人）の順で多い。

前年比をみると、令和6年度は主要マーケットである「台湾」「韓国」で前年度に比べ減少している。一方、「中国」は前年度に比べて大きく増加しているが、中国からの訪日観光客はコロナ禍からの回復が他の国籍・地域に比べ遅く、令和6年度に大きく回復したものである。

表3-2 葛飾区の訪日外国人観光入込客数（GPSデータ）

(単位：千人回)

	訪日外国人観光入込客数				宿泊客数			日帰り客数	
	〔構成比〕			(前年比)		(前年比)		(前年比)	
令和6年度(2024年度)	593.9	[100.0%]	(-3.4%)		127.1	(4.8%)		466.7	(-5.4%)
台湾	126.2	[21.3%]	(-21.4%)		19.8	(-0.5%)		106.4	(-24.4%)
韓国	105.7	[17.8%]	(-31.4%)		21.9	(-35.4%)		83.8	(-30.3%)
中国	104.7	[17.6%]	(150.2%)		18.2	(198.2%)		86.6	(142.0%)
香港	41.4	[7.0%]	(-19.2%)		8.6	(-21.2%)		32.7	(-18.6%)
フィリピン	29.5	[5.0%]	(33.8%)		8.8	(58.9%)		20.7	(25.3%)
米国	26.6	[4.5%]	(-31.5%)		10.4	(-15.1%)		16.2	(-39.1%)
ヨーロッパ	24.7	[4.2%]	(-9.6%)		5.9	(-4.7%)		18.8	(-11.0%)
タイ	21.3	[3.6%]	(-8.6%)		4.3	(-6.7%)		17.0	(-9.0%)
カナダ	20.8	[3.5%]	(24.4%)		3.0	(160.9%)		17.8	(14.2%)
その他	93.0	[15.7%]	(17.9%)		26.2	(26.5%)		66.8	(14.8%)

G P Sデータを用いて、葛飾区を訪れた訪日外国人観光入込客数を月別にみると、極端なピークは観察されず、令和7年6月までは各月とも4～6万人回の間で推移している。令和7年7月以降の人数が増加しているが、これは東京都全域でみられる傾向である。

表 3-3 月別にみる葛飾区（全域）の訪日外国人観光入込客数（G P Sデータ）

（単位：千人回）

	訪日外国人観光入込客数		
	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)
1月	49.5	43.1	47.4
2月	50.4	43.5	47.6
3月	53.1	56.7	55.1
4月	55.5	51.8	59.5
5月	50.5	50.4	57.9
6月	58.6	54.0	50.7
7月	57.6	57.9	69.6
8月	50.8	46.5	68.0
9月	51.5	40.9	69.7
10月	53.6	48.3	82.9
11月	47.6	42.8	75.9
12月	45.8	51.2	81.6

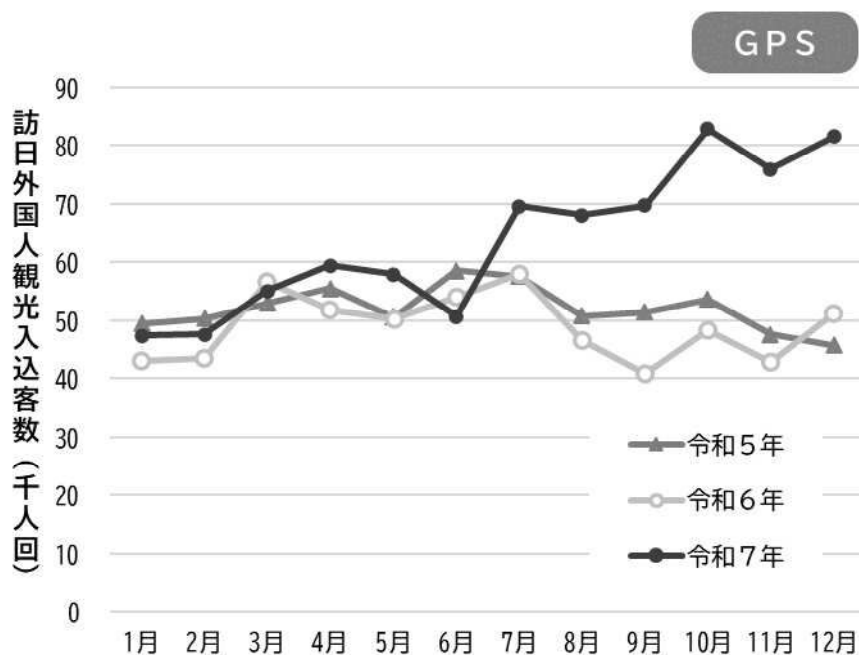


図 3-1 月別にみる葛飾区の訪日外国人観光入込客数（G P Sデータ）

3.2. 訪日外国人観光客の来訪実態

1) 個人属性（国籍・地域）

葛飾区を訪れた訪日外国人観光客の国籍・地域の構成比を観察すると、調査手法によって結果が異なるものの、「台湾」「ヨーロッパ」が主要なマーケットである様子がうかがえる。なお、それぞれの調査手法の調査対象時期は、基地局データが令和6年4月と10月の合算値、GPSデータは令和6年度、現地ヒアリング調査および観光施設等アンケート調査（アンケート）は令和7年8～9月である。

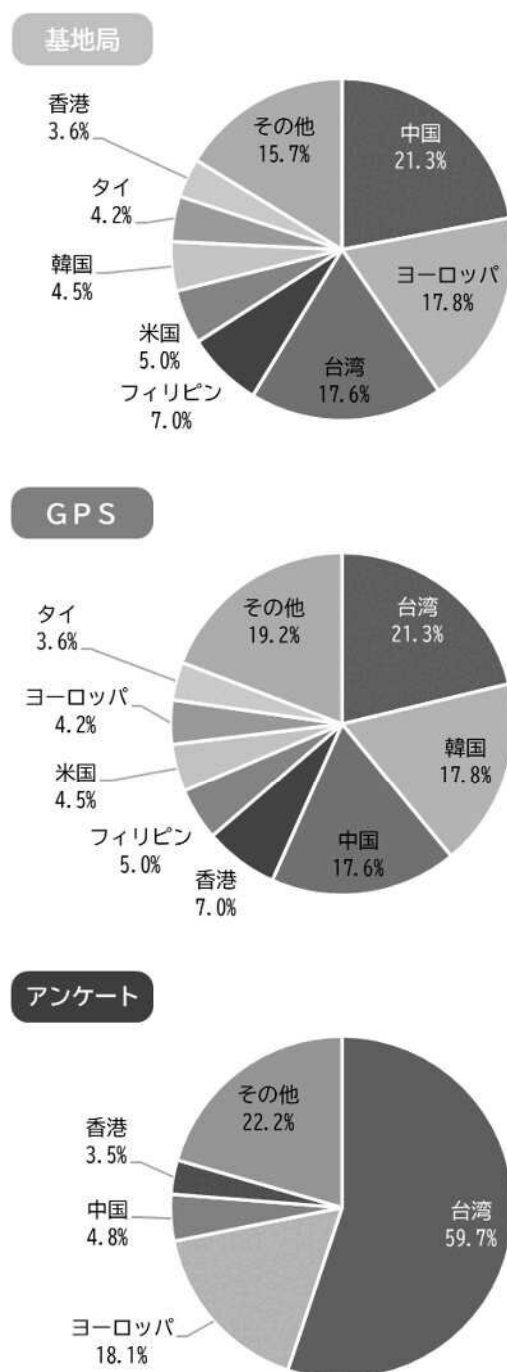


図 3-2 葛飾区の訪日外国人観光客の国籍・地域

2) 葛飾区を訪れる外国人観光客の特徴

柴又地域および亀有地域で実施した現地ヒアリング等調査結果に基づき、訪日外国人観光客のペルソナを整理する。「葛飾区を訪れる代表的な観光客像」を、国籍・地域や目的などを組み合わせて“ひとりの人物像”（ペルソナ）として把握することで、実際の利用者の傾向を具体的にイメージでき、より効果的な施策の検討が容易となる。

▼葛飾区を訪れる外国人観光客 2つのペルソナ

【ペルソナ①】台湾からのアニメ好き若年層 <亀有地域の主要客層>	
属性	- 年代：29歳以下 - 訪問頻度：5回以上のヘビーリピーター - 同行者：友人／知人
行動特性	- 目的地：亀有地域（＋柴又地域） - 目的：漫画・アニメキャラクター巡り - 旅行形態：個人旅行、葛飾区外に宿泊 - 情報収集方法：テレビ、YouTube、Instagram、口コミ - 交通手段：鉄道
価値観・ニーズ	- 「映画やドラマ、アニメ等のキャラクター」に強い魅力を感じる - 満足度・再訪意向・推奨意向はやや高め
観光消費の傾向	- 区内での「飲食費」「土産・買い物費」「入場・観覧費」の購入率はやや高め

【ペルソナ②】ヨーロッパからの歴史・文化関心層 <柴又地域の主要客層>	
属性	- 年代：30～49歳 - 訪問頻度：初めて - 同行者：夫婦
行動特性	- 目的地：柴又地域 - 目的：名所・旧跡 - 旅行形態：個人旅行、葛飾区外に宿泊 - 情報収集方法：YouTube、Instagram、Google Map、口コミ - 交通手段：鉄道
価値観・ニーズ	- 「歴史・文化」「下町の風情」に強い魅力を感じる - 満足度・再訪意向・推奨意向は非常に高い
観光消費の傾向	- 消費は控えめだが、区内宿泊者の「宿泊費」は高い傾向

3) 葛飾区内での宿泊施設の利用実態

柴又および亀有地域で実施した現地ヒアリング等調査結果に基づき、葛飾区内での宿泊施設の利用実態について整理する。

1. 宿泊の傾向と宿泊数

葛飾区を訪れた訪日外国人観光客のうち「葛飾区内に宿泊」した人は7.3%であり、9割強は「葛飾区外に宿泊」していた。葛飾区内に宿泊した人の区内平均泊数は5.26泊であり、台湾などアジアからの旅行者は「1泊」がおおよそ半数を占めるが、アジア以外では10泊以上の長期滞在者が目立つ。

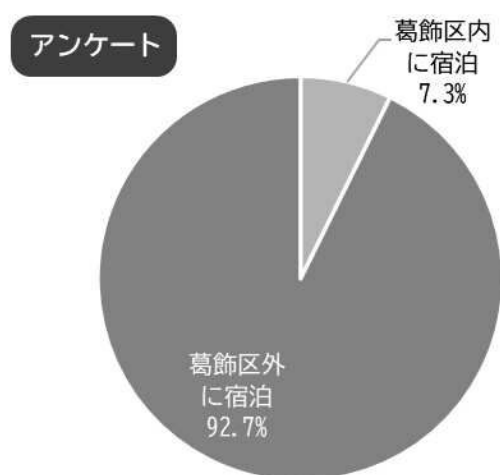


図 3-3 葛飾区内での宿泊の有無

2. 区内の宿泊施設を利用した理由

葛飾区内宿泊施設の利用理由としては、「宿泊料金が手頃だったから」が全体の43.5%と最も多かったが、2番目に多かった「空港（成田・羽田）へのアクセスが便利だったから」（34.8%）は訪日外国人観光客ならではのニーズである。「目的地へのアクセス・交通の便が良いから」（30.4%）よりも高いことから、訪日外国人観光客は目的地よりも空港へのアクセスの良さを重視している人が多いことがわかる。

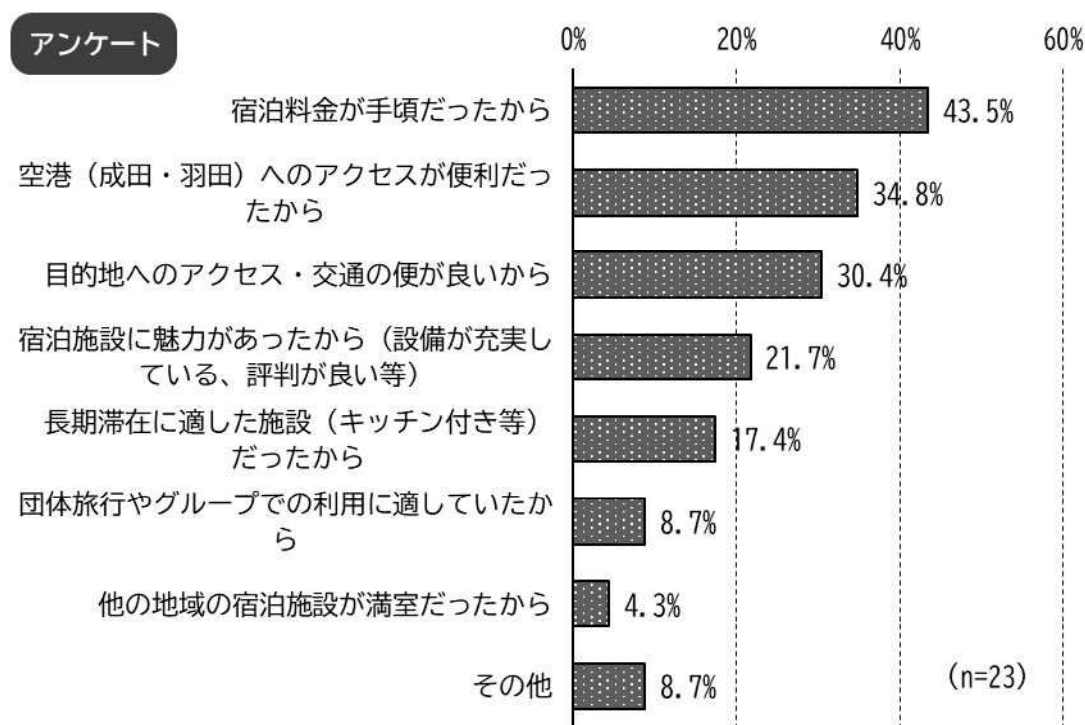


図 3-4 葛飾区内の宿泊施設を利用した理由（複数回答）

3. 宿泊施設を選ぶ上での条件

宿泊施設選定時に重視される条件は「交通アクセスの良さ」が43.5%と最も高かった。次いで、「宿泊料金の安さ」「周辺環境の良さ（飲食店やコンビニが近い等）」（それぞれ30.4%）が上位を占めた。

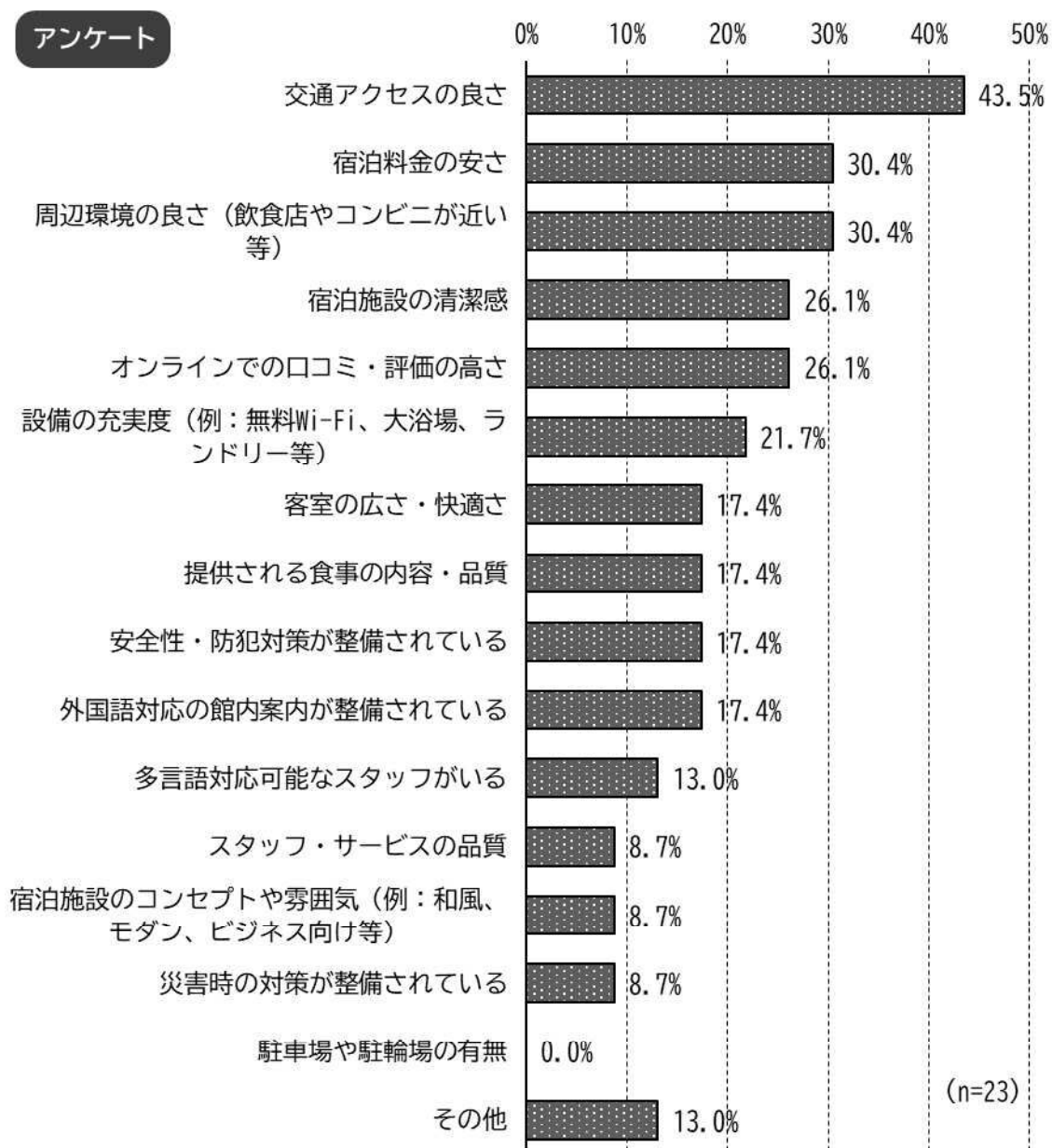


図 3-5 宿泊施設を選んだ際に重視したこと（複数回答）

4. 葛飾区内に宿泊した際に困ったこと

宿泊時の困りごととしては「宿泊料金が想定より高かった」「設備が不十分だった、または故障していた」がそれぞれ17.4%で最も高い。一方、「特に困ったことはなかった」がおおよそ半数を占めた。

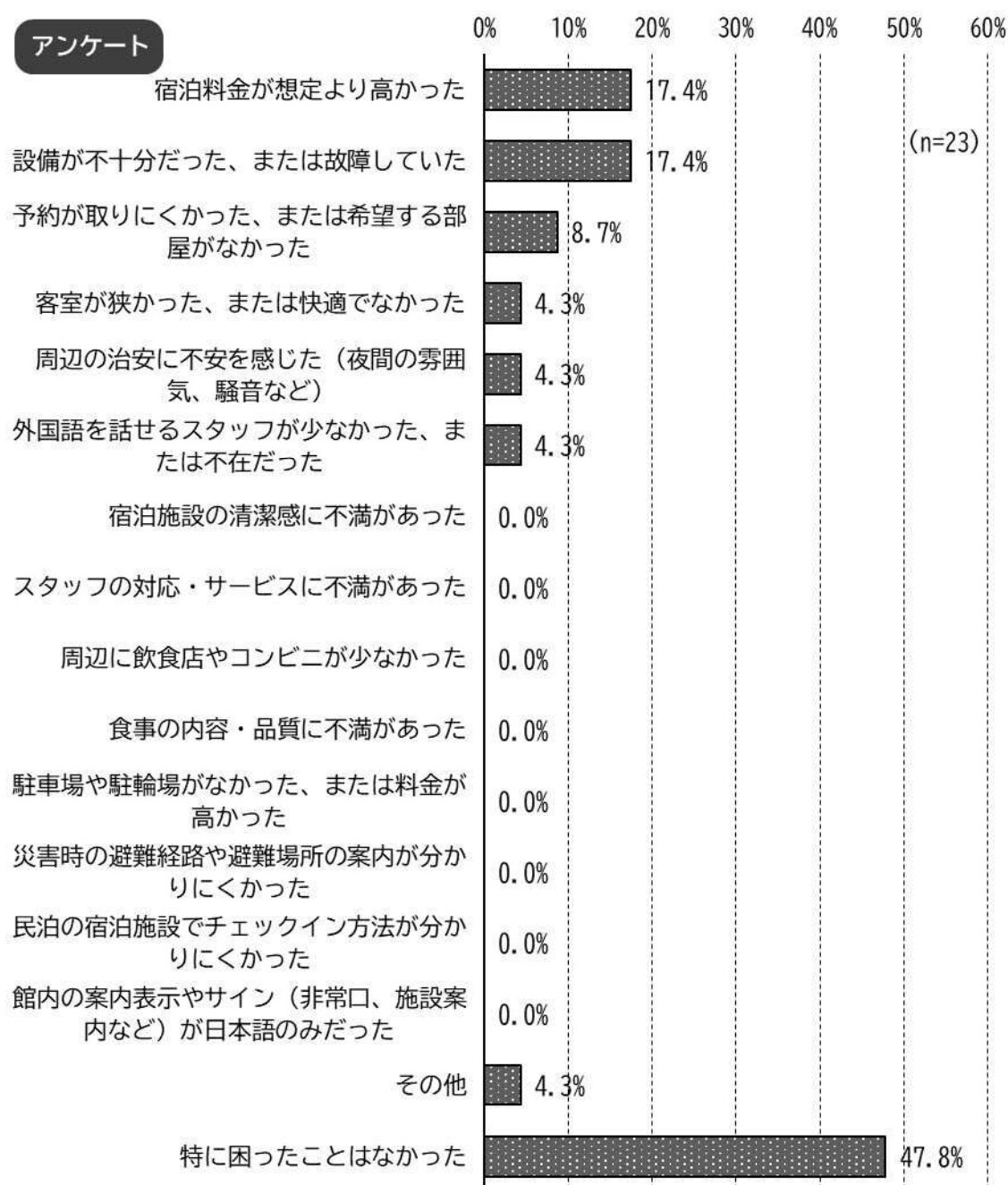


図 3-6 葛飾区内に宿泊した際に困ったこと（複数回答）

5. 民泊利用の実態

ホテル・旅館以外の住宅型宿泊施設（民泊等）の利用率は全体で 52.2%であった。利用率は属性別に差異がみられ、調査地点別では「亀有地域」よりも「柴又地域」の方が、性別では「男性」よりも「女性」の方が、年代別では「30～49 歳」より「29 歳以下」の方が、国籍・地域別では「ヨーロッパ」よりも「台湾」の方が、民泊等の利用率が高い傾向がみられた。

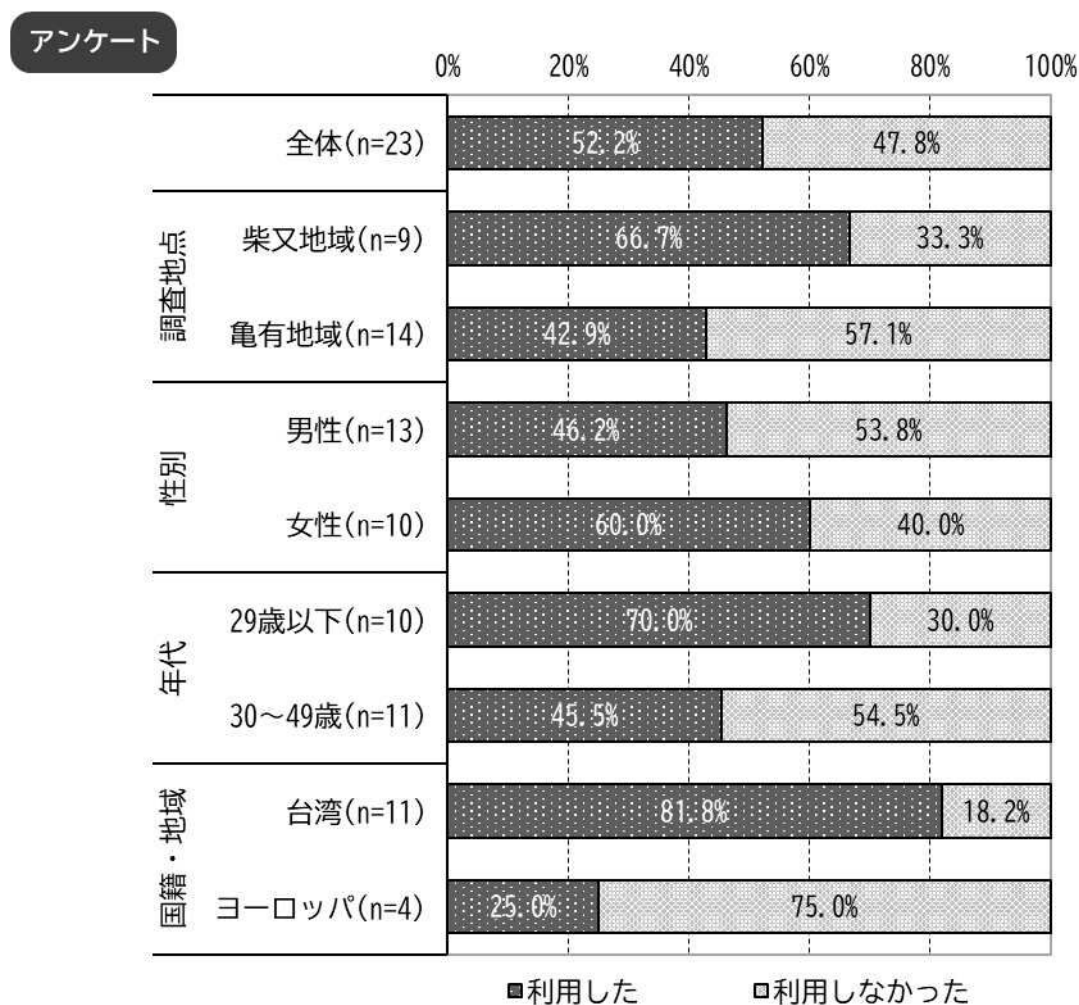


図 3-7 住宅型宿泊施設（民泊等）の利用率

民泊等の利用理由では、「宿泊費を抑えたいから」とともに「グループや家族と一緒に泊まりたいから」が33.3%と最も高かった。なお、「グループや家族と一緒に泊まりたいから」は夫婦や家族連れでの選択率が高い。次いで、「現地の生活を体験したいから」「葛飾区に宿泊したかったから」がそれぞれ25.0%を占めた。

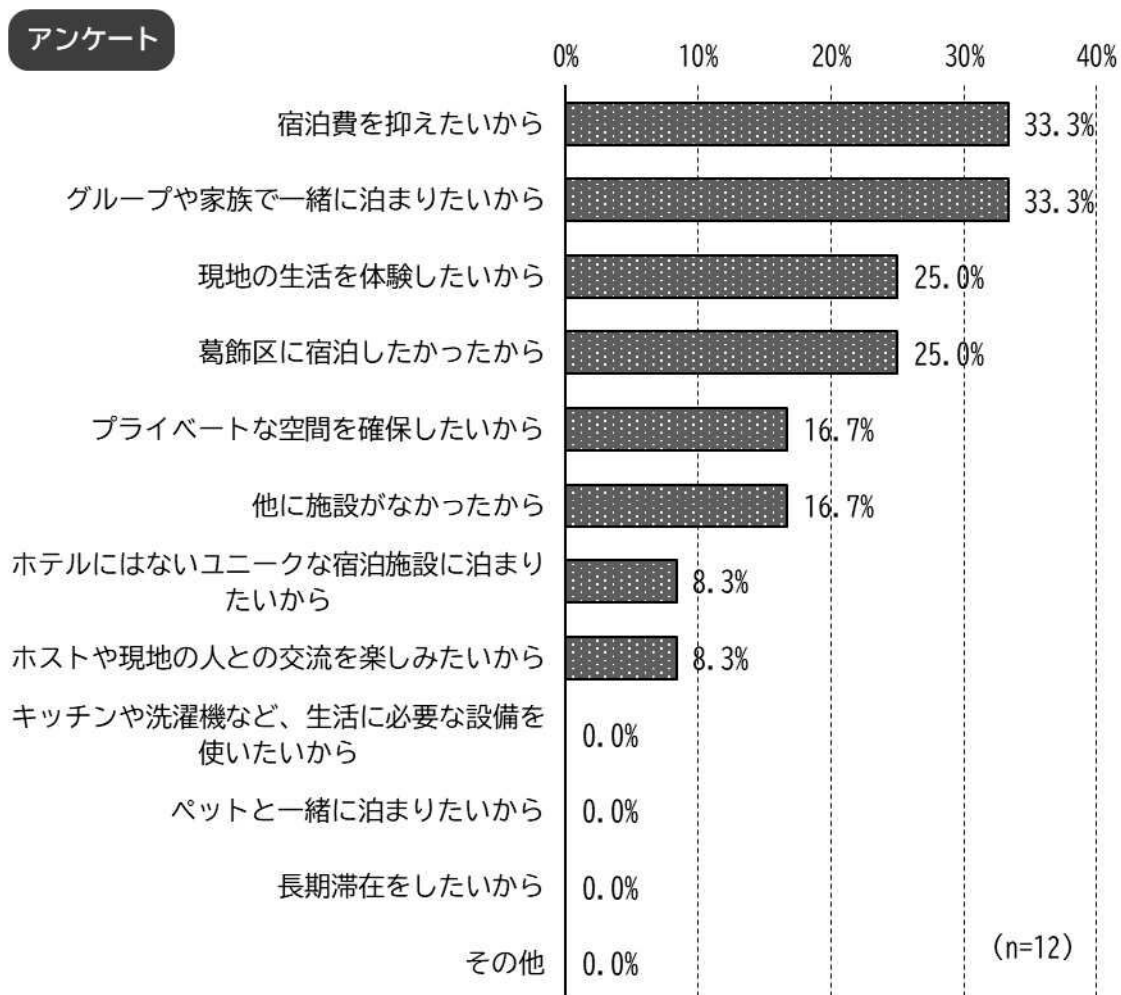


図 3-8 住宅型宿泊施設（民泊等）を利用した理由（複数回答）

6. 総括

訪日外国人観光客の葛飾区内宿泊施設の利用実態を俯瞰すると、空港からの交通アクセスの良さや料金の手頃さ、周辺環境の良さが主な利用条件となっている。

住宅型宿泊施設（民泊等）の利用は区内宿泊客全体のおよそ5割と高く、特に台湾からの区内宿泊客での利用率が高い。民泊は「宿泊費抑制」のみならず、「家族と一緒に泊まりたい」という宿泊客のニーズを満たしており、家族連れの訪日外国人観光客に支持されているものと考えられる。

3.3. 訪日外国人観光客の人流動態

G P S データに基づき、葛飾区を訪れた訪日外国人観光客の前後訪問地をみると、前後とも「東京都墨田区」が圧倒的に多い。葛飾区後の訪問地域では「千葉県成田市」が2番目に多く、帰国前に葛飾区に立ち寄る人が多いのではないかと推測される。



図 3-9 葛飾区の訪日外国人観光客の前後訪問地（令和 6 年度）

一方、葛飾区を訪れた訪日外国人観光客の前後宿泊地をみると、前後ともに「東京都台東区」が圧倒的に多く、次いで「東京都墨田区」や「東京都新宿区」が多いことがわかる。葛飾区を訪れる訪日外国人では、浅草や上野のある台東区を宿泊拠点とし、東京スカイツリーがある墨田区の観光とセットで葛飾区を訪問する周遊パターンが主流と考えられる。

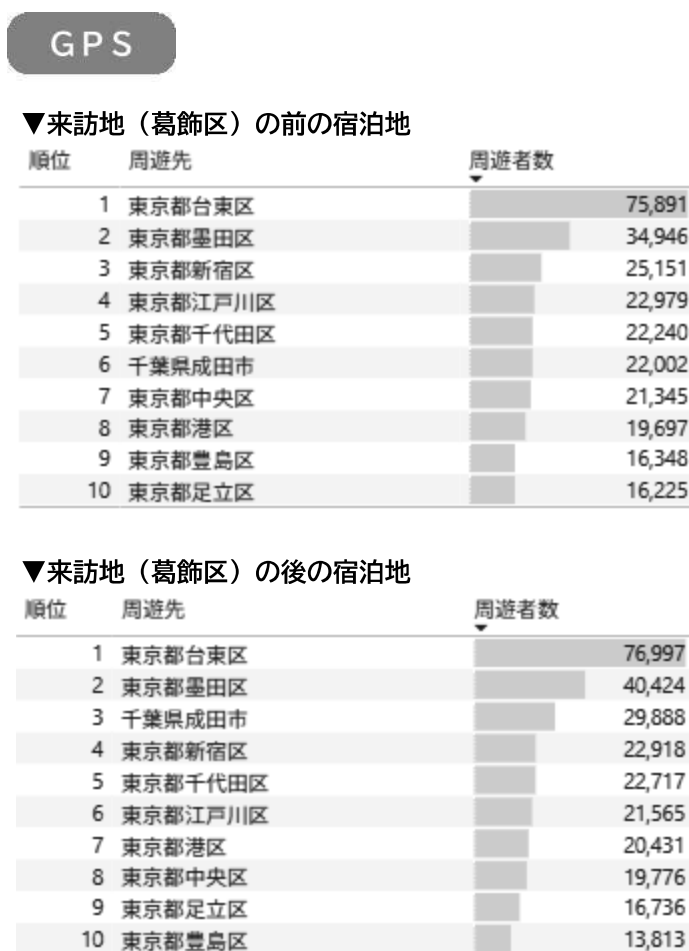
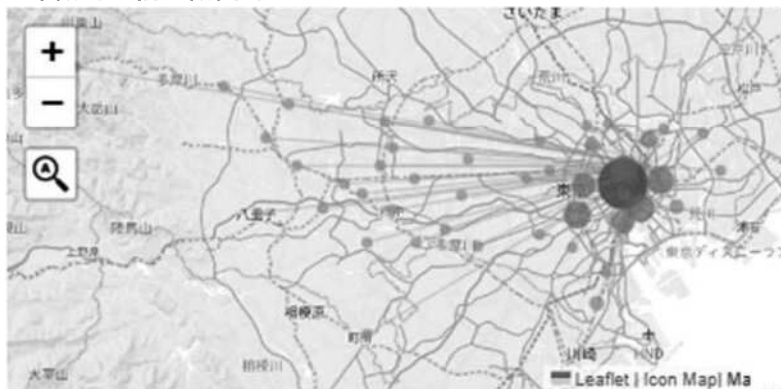


図 3-10 葛飾区の訪日外国人観光客の前後宿泊地（令和6年度）

なお、「台東区」に宿泊する訪日外国人観光客の前後訪問地（島しょ部を除く東京都内のみ）を観察すると、前訪問地は「千代田区」「文京区」「渋谷区」、後訪問地は「千代田区」「新宿区」「渋谷区」などが上位であり、「葛飾区」は極めて少数であることがわかる。「台東区」宿泊の前後で比較すると、「台東区」に宿泊する前よりも後の方が「葛飾区」の訪問率がわずかに高くなっている。

GPS

▼来訪地の前の訪問地



▼来訪地の後の訪問地

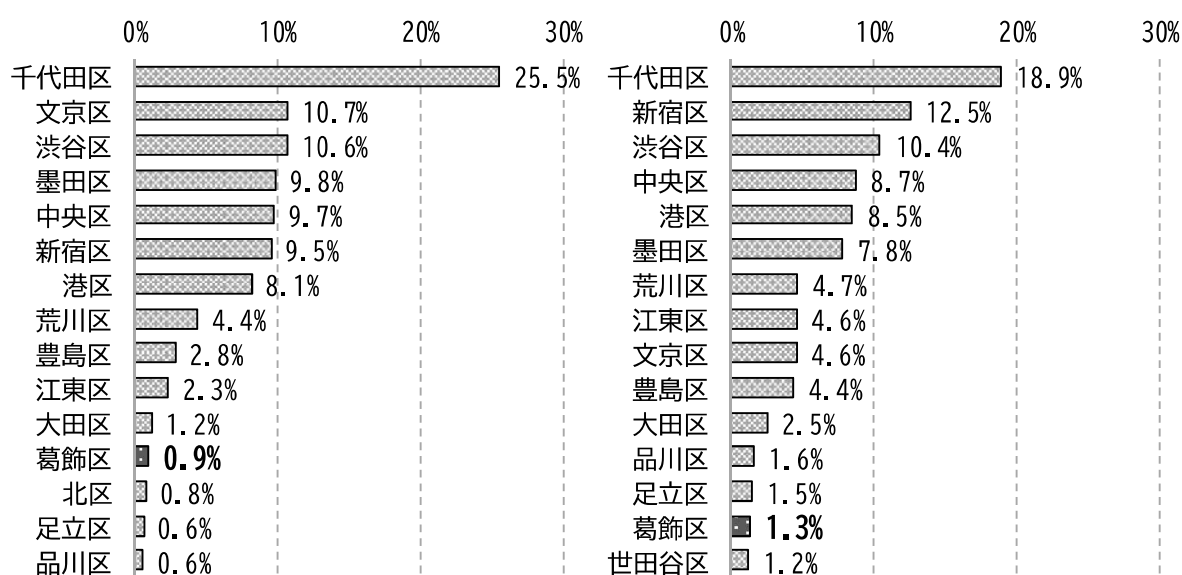
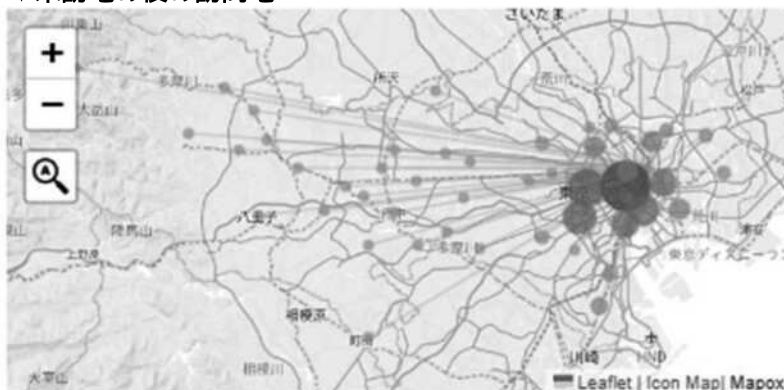


図 3-11 台東区に宿泊する訪日外国人観光客の前後訪問地（令和 6 年度）

令和7年8～9月に柴又地域および亀有地域にて実施したアンケート等の結果をもとに、葛飾区内外での回遊状況をみる。

柴又地域を調査地点とする回答者では【①柴又地域】のみの訪問が53.6%と高いのに対し、亀有地域を調査地点とする回答者では【④亀有地域】に加えて【①柴又地域】にも足を運ぶ人が36.8%と高い傾向がみられた。

調査地点以外での葛飾区内外の回遊では、柴又地域を調査地点とする回答者では【⑤四つ木・立石地域】へ、亀有地域を調査地点とする回答者では【②金町・水元地域】へ回遊する動きが観察された。

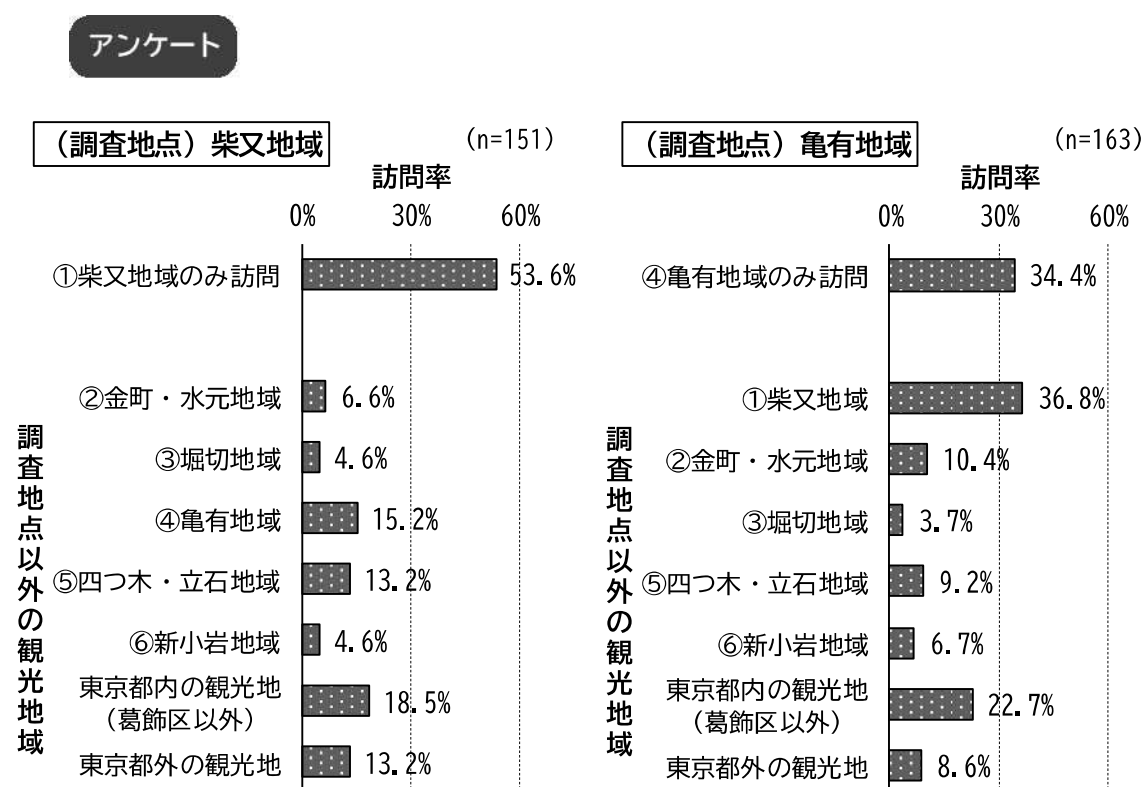


図 3-12 葛飾区内の観光地域の回遊状況

3.4. 葛飾区内での訪日外国人観光消費額

令和7年8～9月に柴又地域および亀有地域にて実施したアンケート等の結果によると、葛飾区内での1人当たり観光消費額は10,818円/人回と推計される。このうち、区内宿泊客は29,728円/人回、区外宿泊客は9,329円/人回である。主な国籍・地域別にみると、「台湾」は14,099円/人回、「ヨーロッパ」は4,044円/人回である。費目別では、「土産・買い物費」(3,644円/人回)と「飲食費」(3,618円/人回)の支出が多い。

表3-4 葛飾区内での1人当たり観光消費額（令和7年8～9月）

【葛飾区内1人当たり観光消費額】（費目毎0円を含む1人当たり平均）

(単位：円／人回)

	交通費	宿泊費	飲食費	土産・ 買い物費	入場・ 観覧費	その他	合計
	1,654 (15.3%)	858 (7.9%)	3,618 (33.4%)	3,644 (33.7%)	725 (6.7%)	319 (2.9%)	10,818 (100.0%)
区内宿泊客	2,343	11,757	5,090	7,376	1,594	1,568	29,728
区外宿泊客	1,599	0	3,502	3,350	657	220	9,329
台湾	2,196	995	4,624	4,740	1,024	521	14,099
ヨーロッパ	636	526	1,568	1,098	216	0	4,044

【購入率】（区内滞在中に支出した人の割合）

	交通費	宿泊費	飲食費	土産・ 買い物費	入場・ 観覧費	その他
全体	87.9%	4.8%	74.3%	52.4%	38.7%	4.4%
区内宿泊客	87.0%	65.2%	82.6%	69.6%	47.8%	17.4%
区外宿泊客	88.0%	0.0%	73.6%	51.0%	38.0%	3.4%
台湾	87.2%	4.8%	73.9%	56.4%	44.1%	6.4%
ヨーロッパ	93.0%	1.8%	66.7%	42.1%	35.1%	0.0%

【購入者単価】（費目毎0円を除く1人当たり平均）

(単位：円／人回)

	交通費	宿泊費	飲食費	土産・ 買い物費	入場・ 観覧費	その他
全体	1,880	18,027	4,871	6,956	1,873	7,168
区内宿泊客	2,695	18,027	6,161	10,603	3,333	9,014
区外宿泊客	1,817	-	4,757	6,564	1,728	6,430
台湾	2,517	20,778	6,254	8,407	2,319	8,155
ヨーロッパ	684	30,000	2,351	2,608	615	-

3.5. 旅行中の災害時に求められる対応

令和7年8～9月に柴又地域および亀有地域にて実施したアンケート結果に基づき、旅行中の災害時に求められる対応について整理する。

1. 旅行中の災害時に求められる情報

訪日外国人観光客が旅行中の災害時に必要と考える情報として、「安全な避難先の場所と行き方」(44.8%)を求める声が多かった。災害時に帰宅を前提とする日本人観光客は「公共交通機関の運行状況」の選択率が最も高かったが、外国人観光客の場合は近くの避難先への案内が最も求められている。これに次いで、「公共交通機関の運行状況」(43.2%)、「食料や水の提供場所、給水所の情報」(41.0%)が上位に挙げられた。

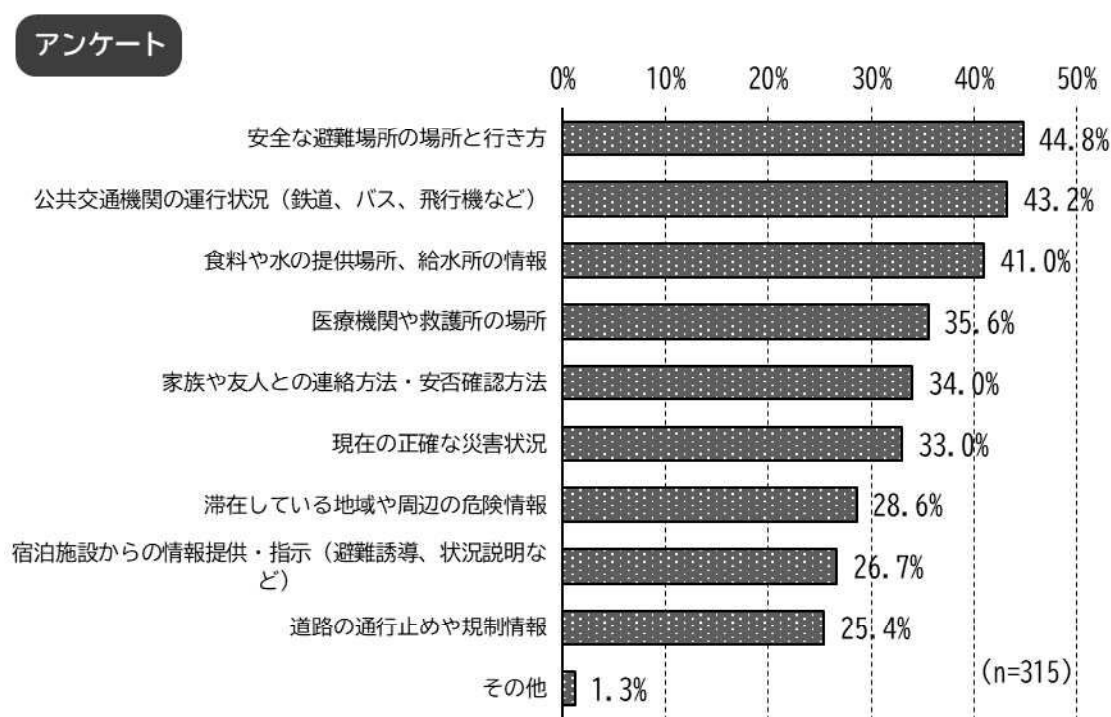


図 3-13 旅行中の災害時に求められる情報（複数回答）

2. 災害時に必要とされる支援物品

支援物品については、日本人観光客と同様、「食料や飲料水」（75.9％）の選択率が最も高い結果となった。次いで、「医薬品や応急処置用品」（46.7％）、「携帯電話のモバイルバッテリー」（46.3％）、「災害用ラジオや懐中電灯などの防災グッズ」（40.3％）が重視されている。

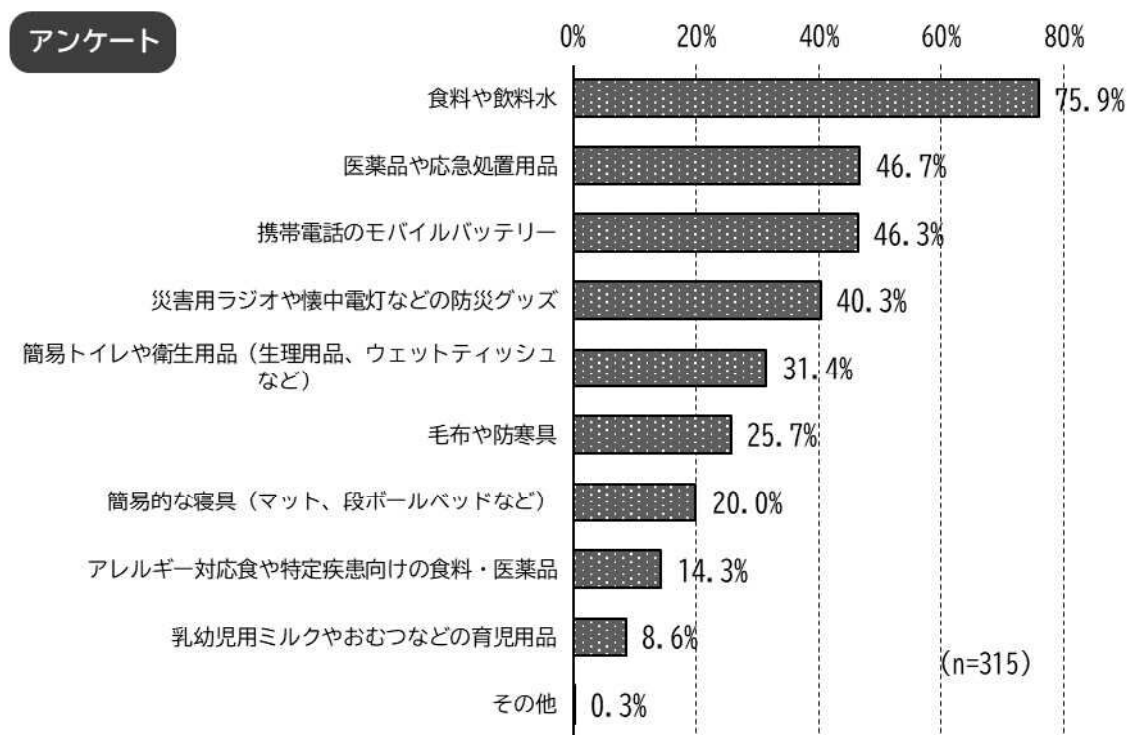


図 3-14 災害時に必要とされる支援物品（複数回答）

3. 総括

訪日外国人観光客の場合には、日本人観光客のように自宅へ戻ることが前提とはならないため、災害発生時には徒歩圏内で迅速にアクセスできる「安全な避難先」に関する情報を求める傾向がみられた。併せて、「食料や飲料水」という生命維持に不可欠な支援物品へのニーズが高い。その他、観光庁が監修している外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ「Safety tips」や日本政府観光局が運営する「Japan Safe Travel (JST)」の SNS による情報発信などの災害時に役立つツールの周知も必要だと考える。

